

## 2007年、職員全員が一丸となり更なるチャレンジを

愛媛大学医学部附属病院 横山雅好 病院長

昨年は開院30周年という節目の年でもあり、新しいことや今までの機能をより強化することに取り組んだ年でもありました。2月の抗加齢センターの立ち上げに続き、3月には栄養療法外来を設置。どちらもオープン当初から順調に稼働しており、とても喜ばしく思っています。さらに6月には、地元医師会のご協力を得て、改修後の手術部の見学や意見交換等を含むオープンハウスを実施。医師会の先生方から忌憚のないご意見を頂戴するありがたい機会になりました。今後は地元住民の方々や高校生など、対象者を広めて実施していきたいと思っています。7月には病院機能評価の訪問審査を受審し、最新のVer.5の認定を受けることができました。受審には看護部を中心に本院の職員全員で取り組み、当院の理念「患者様から学び、患者様に還元する病院」の意義を改めて見つめ直しました。10月には愛媛新聞社との共催により「えひめ健康いきいき大学」を開催し、会場には300人を越す方々が来場。今後も引き続いて開催を予定しています。このように、昨年はとても充実した一年でした。

私は、明るい表情の職員が働いている病院でこそ、病気の人の心を癒すことができる病院だと感じています。他大学の附属病院も見てきましたが、当院ほど、共通の認識を持ってまとまった大学病院は見たことがありません。2007年はさらに職員全員が楽しんで働ける職場を目指し、あいあいキッズ保育所の設置を始め



病院機能評価 Ver.5の認定書

とする女性職員の支援強化、医員の待遇改善、勤務体制の見直しなど職場環境や待遇の改善にも取り組むつもりです。さらに、再生医療研究センターの設置、質の高いがん治療の提供とがんに特化した医療人の育成を目指した腫瘍センターの活動強化、心臓血管診断治療室の本格稼働、放射線画像診断機器の新型機種導入など、高度医療の充実にも努める予定です。

将来の医療を担う人材育成の役割をもつ医学部附属病院の一員として、良

い病院とは何かということを考えた時、私は安心して安全な病院、トップレベルの診断治療技術を擁する病院、そして何よりも患者様に喜ばれる医療が提供できる病院こそが良い病院の条件であると思います。これまでも私たちはそのための努力を最大限に行ってきたと思っています。今後、私たちに課せられた社会的責任は、ますます重くなるでしょう。だからこそ、皆さんから頼りとされる病院となるように、今年も全員が一丸となってチャレンジしていきます。



抗加齢センター



栄養療法外来



オープンハウス(院内見学)



えひめ健康いきいき大学